

## ベトナムの小学生の視写における書字の誤りの特徴に関する研究

The Characteristics of Error Types on the Handwriting by Primary School Students in Vietnam

グエン・チ・カム・フン  
NGUYEN Thi Cam Huong  
(ベトナム国立ハノイ教育大学)

江田 裕介  
EDA Yusuke  
(和歌山大学教育学部)

ベトナムの小学生1,517人を対象として、児童の書字能力の発達経過を分析するため、見本の文章を書き写す課題の調査を実施した(有効資料1,551人)。本研究はその結果の中から児童の書字に生じた誤りに注目して分析を行った。書き誤りの種類やタイプを分類するとともに、出現した誤りの量的な側面を統計的に検証した。その結果、書き誤りを生じた児童の人数は第5学年で有意に多く、第2学年で有意に少なかった。また誤りの度数は学年が高くなるほど増加する傾向が見られた。誤りの出現には男女差が認められ、第2学年、第4学年、第5学年で男子において誤りを生じた人数が女子より有意に多かった。誤りのタイプは、スペリングに関するものと、ベトナム語に独特の声調符号に関するものが多かった。句読点に関する誤りは低学年の段階から少なかった。一方、スペリングと声調符号の誤りは高学年においても多く見られ、ベトナム語の表記法との関係が示唆された。書字速度が増す高学年において誤りが増えることから、書き誤りの特徴を書字速度との関係から検討していくことが必要と考えられる。

**キーワード：**書字能力、視写、小学生、ベトナム語

### 1. 問題

ベトナムにおける小学校の教育課程は、第1学年から第5学年までの5年間である。第1学年から第3学年を低学年、第4学年と第5学年を高学年と区分している。2001年9月から、ベトナム教育訓練省によって「新しい小学校教育課程」が実施されるようになり、これに合わせて教科書も全面的に改訂された。旧教育課程や旧教科書は、1981年から当時まで20年間続けて用いられた。Do Dinh Hoan (2002) は、旧教育課程の基盤となった知識や情報は1970年代から80年代のものであったが、90年代以降ベトナムの社会は大きく変化した。そのため新たな時代と社会に適するように小学校の教育課程を改訂する必要があったと述べている。現行の教育課程が重視する点は、小学生に基本的な学習の技能(読む・書く・話す・聞く・計算する)を習得させること、実際的なスキルを高めること、科学的な思考力(推論・創造・解決・想像など)を育てること、自ら能力を高めることができるように自主的な学習の態度を身に付けさせることなどである。

小学校の授業科目は、第1学年から第3学年までは6教科、第4学年と第5学年では9教科が設定されている。低学年の段階では国語と算数に重点が置かれている。特に「読む」「書く」「話す」「聞く」の言語の4技能は、他の教科の学習においても必要となる基本的な学習の能力とされている(ベトナム教育訓練省、

2006)。国語の授業時間数の割合は第1学年では45.5%、5年間の平均で40.7%を占め、全教科中で最も多い。算数の授業が21.23%(5年間平均)でこれに次ぐ(Do Dinh Hoan)。

ベトナムの公用語は独自のベトナム語であるが、その表記には17世紀まで漢字が使われていた。17世紀にヨーロッパのカトリック宣教師がローマ字によるベトナム語の表記を考案し、フランス植民地時代に普及した。その後、クオック・グー(Quoc ngu)と呼ばれる現在のような正書法が制定され、1954年には公用の表記から漢字が廃止された。クオック・グーは、ローマ字のアルファベットと独自の補助記号を組み合わせて作られた29種の文字と、5種の声調符号の計34種の記号によってベトナム語を書き表す方法である(アルファベットのうちF, J, W, Zの4種は用いない)。先行研究によれば、この表記法の長所は、記号の種類が少なく、習得に時間がかからないことである(Nguyen Thi Hanh, 1992)。クオック・グーは、英語の表記と同じように分かち書きを用いるが、単語ではなく音節で分かち書きをすることが特徴である。現在のベトナム語の文字は表音文字であり(Nguyen Phu Phong, 2001)、基本的には音韻と文字・記号とは1対1の関係であるが、例外的なルールも存在する。たとえば1つの文字で複数の音を表すことや、1つ音を複数の文字で表すことがある。こうした複雑な正書法(dictation rule)は書字の誤りに影響するといわれている

(Nguyen Thi Hanh, 1992; Do Xuan Thao, 1994)。

ベトナムの小学校では、第1学年の第2学期までに全ての文字とベトナム語の音韻を学習し、文字や単語、声調符号を書いたり読んだりできるようになることが国語の授業の目標となっている。また第1学年から第3学年までの国語科の内容には、読み書きの能力を育成するため書字の練習を行うことが定められている。文字の書き方や正しい表記のルールを身に付けることが指導される。書字の練習方法として、視写（見本書き）と聴写（聞き書き）及び暗記書きが行われる。こうした授業は高学年には設定されていないが、読み書きの指導は引き続き国語の授業の中で行われる。

ベトナムでは児童が文字を速く、きれいに書けるように、書字教育が奨励され、全国的に『ていねいに字を書こう』という活動やコンテストがある。そのためベトナムの小学校では、児童も教師も書字の練習にたいへん熱心である。児童と教師はそれぞれベトナム教育訓練省が定めた「小学校における文字のモデル（小字と大字）」（2002年に施行）に準じて文字を書くことが求められる。文字の形や大きさ、筆順、高さの並び、文字間・単語間のスペースなどが決められている。教室の黒板には書字の目安として線が引かれ（2.5cm間隔）、第1学年の教室の黒板にはマス目も描かれている。児童のノートにも線とマス目が印刷され（0.25cm×0.25cm）、一定の大きさや間隔に揃えて書くよう指導される。教師も授業中は文字のモデルに従って正しく黒板やノートに書くことが要求され、特に低学年の授業ではその規定を守ることが必要である。そこで教師教育において板書のトレーニングは必須の事項であり、教師のための板書コンテストもある。

児童の書字速度には教育目標が具体的に定められている。教育訓練省の小学校教育課程によれば、第1学年30単語、第2学年50単語、第3学年60～70単語を、それぞれ児童が15分間に書く単語数の目安として示している。また第4学年80～90単語、第5学年100単語を20分間で書ける単語数の目安としている。これを受けて小学校教育課程の実施提案では、第1学年から第5学年まで、学年毎に30単語・50単語・70単語・90単語・100単語を、それぞれ15分間で書けるように指導することが提案されている。

Hoang Van Thung (1990) は、児童生徒の書字速度は、1つ1つの文字を書き続ける力、文字を全体的に知覚する力、言葉の意味を理解する力、さらに子供の姿勢や道具などが影響すると述べている。Do Xuan Thao (1996) は、児童に文字を教える規定や文字を書く課題を作成するため、小学校第1学年の児童の書字について、文字の大小、書く速度、字画の省略と付加、書き誤り、文字の傾きに関する検討を行った。その結果、60%の児童は文字を教育訓練省が求めるレベルで書くことができたが、25%は文字のモデルを正しく書くことができなかった。誤りの傾向としては、文字の点画の不足や余分な附加が多く見られたと報告してい

る。またNguyen Thi Hanh (1992) は、ハノイの小学校で第1学年から第4学年の児童における表記の誤りを研究した。その結果、本来の文字とは異なる文字に置き換えて書くスペリングの誤りが、文字や単語を省略する誤りより多かったとしている。

しかし、これらの先行研究には客観的、量的な情報が不足しており、児童の書字能力の発達経過を検証する資料としては不十分である。またベトナム語の読み書きについて他に児童の個人差やその要因を詳しく分析した研究はまだほとんどない。

## Ⅱ. 目的

本研究では、ベトナムの小学校において児童の書字能力に関する調査を行い、特に文字の書き誤りに注目して出現傾向の分析を行う。具体的には、小学校通常学級に在籍する第1学年から第5学年までの児童に対して、一定時間に見本の文章を読んで書き写す課題を実施し、その中で生じた書き誤りの特徴を明らかにする。その結果の検証を通じて、ベトナムの小学生における書字能力の発達経過について、学年段階を追って考察することを研究の目的とする。

## Ⅲ. 方法

### 1. 調査の対象

2010年2月から3月にかけて、ベトナムの首都ハノイ及び周辺地域の公立小学校、3校において調査を実施した。1校はハノイ都内にあり、2校はハノイの校外に位置する。

対象となった児童は1,557人で、性別は男子797人（51.19%）、女子760人（48.81%）である。そのうち決められた課題の視写を指示どおりにできなかった児童6人（男子4人、女子2人）の結果を除外し、1,551人の書字を有効資料として分析を行う。対象児の学年毎の内訳をTable 1に示した。

なお今回の調査では、左利きの児童は1人しか見られなかった（0.06%）。ベトナムでは左利きは幼少時に家庭で矯正されることが多いためと考えられる。

### 2. 調査の手続き

児童は、机の上に提示された見本の文章を読みながら2分間の視写を行う。調査は学級単位で一斉に実施する。児童は教室で普段と同じ座席につき、自分がいつも使うペンを用いて課題を書く。用紙は、小学生のノートや、国語の書写の指導で使われているものと同じ体裁で、2.5mm×2.5mmの青線のマス目がある「縦一横4マ

Table 1 調査対象児童の学年別・性別の内訳

単位：人

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	全体
男子	163	159	151	138	182	793
女子	146	159	167	170	116	758
合計	309	318	318	308	298	1,551

Table 2 各学年の視写課題の内容

学 年	主 題	文 章 タ イ ト ル	単語数	文 数	出典*
1年	自然と国土	Duoi anh trang	27	3	国語Ⅱ
2年	植物	Canh dong lua chin	42	3	国語Ⅰ
3年	故郷	Duong len ban Hmong	70	7	国語Ⅰ
4年	様々な美しさ	Nhung canh buom ben bo song	84	6	国語Ⅰ
5年	ベトナムは私達の国	Buoi sang tren thanh pho Ho Chi Minh	100	6	国語Ⅰ

\*国語Ⅰ：第1学期用の教科書(旧版)／国語Ⅱ：第2学期用の教科書(旧版)

Table 3 児童の書字に出現した誤りのタイプと内容の分類

誤りのタイプ	誤りの種類と内容
Type 1：文字そのものの誤り	1-1 崩壊（字形が崩れて判読・特定が困難）
	1-2 異配置（鏡文字など）
	1-3 部分的な誤り（原型が保存された、点画の付加や省略）
Type 2：スペリングに関する誤り	2-1 余分な文字の付加（余分な文字の繰り返しを含む）
	2-2 文字の抜け・省略
	2-3 部分的に別の文字を書く（文字位置の転位を含む）
Type 3：単語に関する誤り	3-1 異なった単語を書く
	3-2 置き換え・転位（単語は書かれているが文中の位置が異なる）
	3-3 単語の抜け・省略
	3-4 余分な単語の付加（同じ単語の繰り返しを含む）
Type 4：声調符号に関する誤り	4-1 異なった符号を書く
	4-2 置き換え・転位（別の文字位置に符号が付く）
	4-3 符号の抜け・省略
Type 5：句読点に関する誤り	5-1 異なった記号を書く
	5-2 記号の省略
	5-3 余分な記号の付加

ス紙」と呼ばれる標準規格のものを利用する。

見本に提示される文章は、教科書に準じた活字で印字されているが、生徒が書く文字は通常の手書き指導に準じて筆記体とする。

「できるだけ速く書いてください。しかし、できるだけまちがえないように書いてください」と説明し、合図で一斉に視写を開始する。消しゴムは使用せず、書き間違えたときは消さずに次のマス目から正しい文字を書くように指示した。

### 3. 課題の作成

視写の課題は、学年別に作成し、2003年度まで使われていた旧教育課程の国語教科書から文章を抜粋した。現行教科書は児童が内容を記憶している可能性があり採用しなかった。各学年で用字、文法、物語のテーマ等を配慮して、適当と考えられる文章を選んだ。各課題の内容はTable 2に示す通りである。

見本として提示する文章は、国語の教科書と文字の書体や大きさが近似するように調整した。第1学年用の課題はフォント：VnArial, 14サイズの文字を、第2学年から第5学年用の課題はフォント：VnArial Narrow, 14サイズの文字を、それぞれ無線のA4紙に印刷した。

### 4. 評価の基準

児童が視写した課題の中で生じた書き誤りの箇所を分析し、誤りのタイプや種類を区分した。その基準に従って誤りの箇所数をカウントして、学年毎に集計した。

具体的な誤りの区分については結果のところであわせて示す。

## IV. 結果

### 1. 書き誤りのタイプと下位項目の分類

1,551人の児童が視写した課題において出現した誤りの箇所を調べ、誤りのタイプのカテゴリー化と、具体的な下位項目の分類を行った（Table 3）。本研究では、書き誤りのタイプを、大きく次の5つに区分することとした。

①文字そのものの誤り：字形が崩れて判読が不能であるものや、鏡文字など、文字自体の書き方に誤りや著しい問題があるもの。

②スペリングに関する誤り：つづりの方の問題で、単語の中で一部の文字が違っていたり、抜け落ちていたり、余分な文字が加わっているとき。

③単語に関する誤り：文字の書き誤りではなく、単語がそっくり抜け落ちていたり、置き換わっていたり、余分な単語が書かれているようなとき。

④声調符号に関する誤り：ベトナム語の表記に独特のものである。必要な符号が書かれていなかったり、異なる符号が書かれているときなど。

⑤句読点に関する誤り：ピリオドやカンマなど句読点の抜け落ちていたり、異なる記号が書かれているときなど。

Table 4 書字課題における誤りの有無と学年別・男女別の人数

	第1学年			第2学年			第3学年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
有	74	55	129	69	47	116	69	65	134
無	89	91	180	90	112	202	82	102	184
計	163	146	309	159	159	318	151	167	318
のべ誤数	110	75	185	142	73	215	125	98	223

  

	第4学年			第5学年			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
有	71	60	131	103	51	154	386	278	664
無	67	110	177	79	65	144	407	480	887
計	138	170	308	182	116	298	793	758	1,551
のべ誤数	153	102	225	166	87	253	696	435	1,101

Table 5 書き誤りのあった児童数の学年差

	1年	2年	3年	4年	5年
有	129	116▽*	134	131	154▲**
無	180	202▲*	184	177	144▽**

(▲有意に多い、▽有意に少ない、\* $p < .05$  \*\* $p < .01$ )

Table 6 書き誤りのあった児童数の性差

	男子	女子
有	386▲*	278▽*
無	407▽*	480▲*

(▲有意に多い、▽有意に少ない、\* $p < .05$ )

Table 7 書字課題における誤りの出現数(1人当たり)の中央値

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
N	74	55	69	47	69	65	71	60	103	51
Me	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1
Range	1-4	1-5	1-7	1-6	1-7	1-8	1-11	1-5	1-8	1-13

各タイプに具体的な誤りの内容を表す3つないし4つの下位項目を設け、実際に出現した書き誤りがいずれかのタイプ、項目に分類できるようにした。なお、①②④⑤の各タイプは、書字の誤りとして、見本と異なる部分を文字・記号の数で表すことができる。しかし、③のタイプの誤りを文字数で表すことは適当でないと考えられる。そこで、本研究では、書き誤りの箇所集計は、文字数のカウントではなく、何箇所に誤りが生じたかをカウントすることとした。③のタイプの誤りは、単語の中の文字数がいくつであっても1箇所として計上する。それ以外のタイプの誤りは、見本と異なる文字や記号の数をそのまま誤りの箇所として計上する。

## 2. 書き誤りを生じた児童の人数と誤りの度数

見本として提示した課題を、すべて正しく書くことができた児童と、何らかの書き誤りを生じた児童とを区分して、学年別、男女別に人数を集計したものがTable 4である。

まず、学年によって書き誤りを生じた児童の人数に差があるかどうか、カイ二乗検定により分析したところ、人数の偏りが1%水準で有意であった( $\chi^2(4) = 14.990$ ,  $p < .01$ ,  $\Phi = 0.098$ )。そこで残差分析を行ったところ、Table 5に示すような結果となった。すなわち、第2学年において書き誤りのあった児童の人数は、他の学年に比べて有意に少なく、第5学年にお

いては有意に多かった。

また出現した書き誤りの総度数(のべ数)については、学年が進むとむしろ増える傾向がうかがえる。学年による出現度数の偏りは有意であり( $\chi^2(4) = 10.775$ ,  $p < .05$ )、多重比較の結果、第1学年と第5学年の間には有意差が見られた。

次に、男女の性別で書き誤りのあった児童の人数に差が生じるかをカイ二乗検定により分析したところ、性差が1%水準で有意であった( $\chi^2(1) = 22.796$ ,  $p < .01$ )。残差分析の結果、Table 6に示したように男子は女子に比して書き誤りのあった児童数が多かった。そこで、各学年で性別による人数の偏りを分析したところ、第2学年( $\chi^2(1) = 6.568$ ,  $p < .05$ )と第4学年( $\chi^2(1) = 8.133$ ,  $p < .01$ )、及び第5学年( $\chi^2(1) = 4.524$ ,  $p < .05$ )で、男子において書き誤りのあった児童数が女子よりも多かった。

## 3. 全般的な書き誤りの個数

児童1人当たりはいくつの書き誤りが見られたか、Table 7に誤りの個数の中央値を学年別、男女別に示した。第2学年及び第4学年の男子は中央値が2であったが、他はいずれも中央値1であった。すなわち何らかの書き誤りを生じた児童も、1箇所だけの誤りであることが多い。ただしレンジは広く、少数ながら1人で多数の誤りを生じた児童がいることを示している。

#### 4. 書き誤りのタイプ及び種類別の集計

本研究における書き誤りのタイプと、内容の下位項目の分類に従って、各学年の課題の視写において誤りを生じた児童の人数を集計したものがTable 8-1及びTable 8-2である。なお、1人の児童が複数の下位項目で誤りを生じていることがあるため、合計欄はのべ人数となっている。

タイプ別に誤りを生じた児童の人数を見ると、どの学年においてもType 2：スペリングに関する誤りと、Type 4：声調符号に関する誤りが多い。逆に、Type 5：句読点に関する誤りは、第1学年の段階から極少数にしか見られず、第5学年では全項目で1人もいなかった。

各タイプの下位項目を見ると、Type 1：文字そのものの誤りでは、字形の崩壊と、原型保存タイプの部分的な誤りが多い。Type 2：スペリングでは、単語の一部分のつづり間違いが中心である。Type 4では、異なった符号を書いてしまう誤りと、符号の抜け・省略が多く見られる。

学年段階によって書き誤りのタイプや種類に変化が生じるかをカイ二乗検定によって分析したが、どのタイプ、下位項目においても学年による有意差は認められなかった。書き誤りを生じる児童の人数は学年段階が進むことで減るとはいえない。

#### V. 考 察

書き誤りを生じた児童の人数が最も多かったのは第5学年で、最も少なかったのは第2学年であった。また出現した書き誤りの総度数を比較すると、学年が進むにつれて上昇する傾向が見られた。第1学年と第5学年の間には有意差があり、高学年児童において書き誤りが多く生じていた。河野(2008)は、日本の小学生の書字速度に関する研究で、一部の課題で書字の誤り数が学年とともに増加傾向にあったことから、書字速度が増すにつれて誤りをおかす可能性も高くなることを指摘している。また、Blöte & Hamstra-Bletz(1991)は、書字速度が上がると判読性が低くなると報告している。本研究の結果は、今後ベトナムの児童の書字速度の発達経過を研究していく中で再度検証を試みたい。

本研究では男女差が認められ、第2学年、第4学年、第5学年で、男子において書き誤りを生じた人数が女子よりも有意に多かった。また、その人数が最も多いのは第5学年であった。日本で行われた小学生の書字に関する先行研究では、河野(2008)が、有意味課題の視写におけるエラー率では低学年、中学年、高学年で、男子の方が女子よりも高かったとしている。ベトナムの児童の視写においても男子の方が書き誤りを生じやすいという結果になった。

書き誤りパターンと種類については、全学年でスペリングに関する誤りと、声調符号に関する誤りが多かった。句読点に関する誤りは低学年の段階から希に

しか見られなかった。今回の調査が1,500人以上の児童を対象にしたことを考えると、わずか数人の児童しか誤りを生じなかったことは、視写の課題では句読点に関する誤りが生じにくいことを示している。また単語に関する誤りも全体に少なかった。

誤りの下位項目における種類については、文字に関するものでは字形の崩壊が最も多く、Type 1の書き誤り全体の約半分を占めていた。また、文字の原型は保存されているが部分的な誤りを生じている例が30%弱見られた。この結果は、Do Xuan Thao(1996)の報告を支持するものである。

具体的に書き誤りの例を見ると、第1学年から第3学年までは、誤りの特徴として、文字の点画の一部を誤って書き、さらに上書きをするため字形が変化して読めなくなったものが多く見られる。結果的に字形は崩壊するが、元々文字の原型がある程度記憶されていたのではないかと思われるものもある。第4学年と第5学年の場合は、字形を整えることができている、字画の一部が抜け落ちていたり、簡略化されて、結局何の文字であるか判別できなくなっているものが多数見られる。

また、低学年の児童の書字は、学校で教示された文字のモデルとよく合致するが、高学年の児童の書字は個人的な特徴を持つようになっている。課題を視写する際に、第1学年の児童は、文字を丁寧に一つずつ書き写す様子が観察された。

Type 1の書き誤りの中で、文字の異配置は、本研究では計11個が計上され、すべて鏡文字であった。鏡文字を書いた児童は、第1学年の8人と第3学年の3人である。11個の鏡文字は、どれも“q”を“p”と書いたもので、これらは異字とも考えることができる。高学年の児童には鏡文字は見られなかった。

本研究の結果から、声調符号の表記はベトナムの小学生にとって難しい学習課題であることが示唆されている。書き誤りの度数や人数に関して学年段階による有意差は見られなかったが、第1学年の視写課題には声調符号の含有率が少ないことを考え合わせると、書き誤る児童が少ないとはいえない。音声のベトナム語では、声調は自然に存在するが、書く時にはそうした音の変調を記号化して表現しなければならない(Do Xuan Thao, 1997)。第1学年の児童が声調符号の表現に不慣れなことは無論であるが、早い段階で確実にしている句読点の表記とは異なり、声調符号は高学年になっても完全には定着していない児童がいることがうかがえる。

スペリングに関する誤りは、本研究では他のタイプよりも出現頻度が高く、高学年においてもその傾向は目立って改善されていなかった。Tran Manh Huong & Le Huu Tinh(2008)によれば、書字の心理的な機構は、音節・発音・つづりと、個々の文字との関係が内的に確認できることであり、それが確立することで正しく文字を書けるようになると述べている。また、小野瀬(1995)は、児童の書字技能の発達

Table 8-1 書字に誤りのある児童数の項目別集計(1～3年)

( ) 内: 元人数

	第1学年			第2学年			第3学年		
	男(163)	女(146)	計(309)	男(159)	女(159)	計(318)	男(151)	女(167)	計(318)
Type 1 : 文字そのものの誤り									
1-1	11	2	13	14	5	19	10	7	17
1-2	6	2	8	0	0	0	2	1	3
1-3	5	3	8	12	7	19	13	15	28
計	22	7	29	26	12	38	25	23	48
Type 2 : スペリングに関する誤り									
2-1	5	6	11	1	0	1	10	4	14
2-2	6	4	10	8	3	11	5	10	15
2-3	30	18	48	44	23	67	27	23	50
計	41	28	69	53	26	79	42	37	79
Type 3 : 単語に関する誤り									
3-1	1	1	2	2	1	3	9	4	13
3-2	1	0	1	0	0	0	2	0	2
3-3	6	8	14	2	4	6	3	5	8
3-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	9	17	4	5	9	14	9	23
Type 4 : 声調符号に関する誤り									
4-1	20	8	28	12	8	20	20	12	32
4-2	5	11	16	5	1	6	2	0	2
4-3	7	7	14	15	8	23	4	2	6
計	32	26	58	32	17	49	26	14	40
Type 5 : 句読点記号に関する誤り									
5-1	0	0	0	0	0	0	2	3	5
5-2	2	2	4	1	0	1	1	0	1
5-3	0	0	0	1	0	1	0	1	1
計	2	2	4	2	0	2	3	4	7

Table 8-2 書字に誤りのある児童数の項目別集計(4～5年)

( ) 内: 元人数

	第4学年			第5学年			全 体		
	男(138)	女(170)	計(308)	男(182)	女(116)	計(298)	男(793)	女(758)	計(1551)
Type 1 : 文字そのものの誤り									
1-1	18	11	29	17	9	26	70	34	104
1-2	0	0	0	0	0	0	8	3	11
1-3	11	12	23	7	3	10	48	40	88
計	29	23	52	24	12	36	126	77	203
Type 2 : スペリングに関する誤り									
2-1	6	6	12	4	1	5	26	17	43
2-2	2	1	3	5	0	5	26	18	44
2-3	38	30	68	61	30	91	200	124	324
計	46	37	83	70	31	101	252	159	411
Type 3 : 単語に関する誤り									
3-1	15	13	28	9	3	12	36	22	58
3-2	2	2	4	0	0	0	5	2	7
3-3	10	1	11	8	3	11	29	21	50
3-4	0	0	0	2	1	3	2	1	3
計	27	16	43	19	7	26	72	46	118
Type 4 : 声調符号に関する誤り									
4-1	13	8	21	22	15	37	87	51	138
4-2	2	4	6	4	3	7	18	19	37
4-3	5	2	7	4	1	5	35	20	55
計	20	14	34	30	19	49	140	90	230
Type 5 : 句読点記号に関する誤り									
5-1	0	2	2	0	0	0	2	5	7
5-2	2	0	2	0	0	0	6	2	8
5-3	0	0	0	0	0	0	1	1	2
計	2	2	4	0	0	0	9	8	17

について、見本がなくとも書字が安定する小学校3年生から5年生の時期を、書字技能が達成される発達段階としている。しかし、第5学年の児童でも男女ともに約30%がType 2の誤りを生じており、読字や書字の技能が発達しても、スペリングは他の要因が影響して誤りを生じることがあると考えられる。Nguyen Thi Hanh (1992)の研究によれば、書字の誤りは表記のルールにも影響されるとしている。ベトナム語の正書法は複雑だといわれている。ベトナムの児童における書字能力の発達と、ベトナム語の正書法との関係については、今度の研究課題の一つとしたい。

## 文 献

- Blote, A., & Hamstra-Bletz, L. (1991) A longitudinal study of the structure of handwriting. *Perceptual and Motor Skills*, 72, 983-994.
- Bui Van Hue (1996) 小学校心理学. 教育出版社 (Giáo trình tâm lí học tiểu học, NXB Giáo dục).
- Do Dinh Hoan (2002) 小学校新プログラムにおける基礎課題. 教育出版社 (Một số vấn đề cơ bản của chương trình tiểu học mới, NXB Giáo dục).
- Do Xuan Thao (1994) 現代におけるベトナム文字の改善に関する意見. 教育研究, 10, 15 (Mấy ý kiến về cải tiến chữ viết tiếng Việt hiện nay, Nghiên cứu giáo dục, 10, 15).
- Do Xuan Thao (1996) 1年生の書字能力と練習課題について. ハノイ教育大学 (Nghiên cứu việc rèn luyện kỹ năng viết chữ cho học sinh lớp 1, Đại học Sư phạm Hà Nội).
- Do Xuan Thao, Le Huu Tinh (1997) ベトナム言語2. 教育出版社 (Giáo trình Tiếng Việt 2, NXB Giáo dục).
- Gramham, S, Berninger, V, Weintraub, N, and Schafer, W (1998) Development of handwriting speed and legibility in grades 1-9. *Journal of Educational Research*, 92, 42-52.
- Hoang Van Thung (1990) 小学校における早く書く要求の解決. 教育研究, 4, 28-29 (Giải quyết yêu cầu viết nhanh ở các lớp cấp 1, Nghiên cứu Giáo dục, 4, 28-29).
- 河野俊寛 (2008) こどもの書字と発達—検査と支援のための基礎分析. 福村出版.
- 森田安徳・山口俊郎 (1993) 学習障害児の読み書き検査作成の試み(1)—健常児の結果. 児童青年精神医学とその近接領域, 34, 444-453.
- Le A (2003) 小学校における文字と文字指導. ハノイ教育大学出版 (Chữ viết và dạy chữ viết ở tiểu học NXB Đại học Sư phạm Hà Nội).
- Ly Toan Thang (1979) 文字記号の言語的な基礎要因について. 言語, 3, 184-195 (Một vài cơ sở ngôn ngữ học của vấn đề chữ viết, Ngôn ngữ, 3, 184-195).
- Nguyen Phu Phong (2001) ベトナム語の文字の2種類の比較的な見方. 言語, 13, 24-33 (Cái nhìn đối chiếu giữa hai chữ viết tiếng Việt, Ngôn ngữ, 13, 24-33).
- Nguyen The Lich (2003) 1年におけるベトナム語の文字と音韻の教え方の規則. 言語, 10, 62-67 (Các nguyên tắc triển khai việc dạy chữ và âm trong tiếng Việt lớp 1, Ngôn ngữ, 10, 62-67).
- Nguyen Thi Hanh (1992) 小学生の読む行動と書く行動について. 教育研究, 6, 40-42 (Về việc học đọc chữ và viết chính tả của học sinh tiểu học, Nghiên cứu giáo dục, 6, 40-42).
- Steve Graham, Karen R. Harris, Linda Mason, Barbara Fink-Chorzempa, Susan Moran, Bruce Saddler, (2008) How do primary grade teachers teach handwriting? A National survey. *Reading and writing*, 21, 49-69.
- 小野瀬雅人 (1995) 入門期の書字学習に関する教育心理学的研究. 風間書房.
- Tran Manh Huong, Le Huu Tinh (2008) 小学校におけるベトナム言語の指導—188問題への解決. 教育出版社 (Giải đáp 188 câu hỏi về giảng dạy môn Tiếng Việt ở tiểu học, NXB Giáo dục).
- ベトナム教育と訓練省 (2006) 小学校教育プログラム. 教育出版社 (Chương trình giáo dục phổ thông cấp tiểu học, NXB Giáo dục).
- ベトナム教育と訓練省 (2006) 小学校教育プログラムでの1・2・3・4・5年におけるベトナム言語を実施するための提案. 教育出版社 (Hướng dẫn thực hiện Chuẩn kiến thức, kỹ năng môn Tiếng Việt các lớp 1, 2, 3, 4, 5. NXB Giáo dục).

The Characteristics of Error Types on the Handwriting  
by Primary School Students in Vietnam

Nguyen Thi Cam Huong\* and Yusuke Eda\*\*

*\*Faculty of Special Education, Hanoi National University of Education*

*\*\*Faculty of Education, Wakayama University*

In order to analyze the development of handwriting ability of children in Vietnam, this research made a test of transcription to 1,557 primary school students and verified the errors in their handwriting. After being classified into five types and subdivided items, the quantitative aspects of errors on handwriting have been statistically analyzed. As a significant result, the students in the fifth grade produced more errors, and the ones in the second grade produced less error in writing. Frequency of errors tended to increase in the higher grade. The difference of achievement between boys and girls also can be seen. Among the second, fourth and fifth grades, the proportion of boy who made errors were significantly more than of the girls. About types of errors, fewer errors on punctuation marks are found in the data written by students of the lower grades, while errors in spelling and errors in the tone code of Vietnamese language are more common, even in the upper grades. As their writing has been speeding, the more errors appear in the upper grade student's data. It will be necessary to consider the correlation between the handwriting errors and the writing speed, and the notation in Vietnamese language.

Key Words : handwriting ability, transcription, primary school students, Vietnamese language